

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	上志の風
事 業 名	宮崎県都農町 スポーツを軸にしたまちづくりについて
事 業 区 分	①研究研修

1 上田市での課題と研修・調査の目的

令和10年に長野県で開催予定の国民スポーツ大会の成功や第二次上田市スポーツ推進計画の基本理念に掲げる「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取組をより一層進める為、上田市は昨年スポーツ都市宣言をしました。スポーツを通じて上田市が考える具体的な方向性を決めていく中で、都農町のスポーツを軸にしたまちづくりについて視察を行った。

2 実施概要

実施日時	視察先	宮崎県 都農町
令和6年2月8日(木) 9:30 ~ 11:00	担当部局	まちづくり課 都農 enjoy スポーツクラブ ツノスポーツコミッション

1 市の概要

- ・都農町は、宮崎県の中東部、宮崎市の北北東約40kmの場所に位置する。西側は九州山地の一部に含まれる産地で、東側は日向灘に面する。
- ・面積102.11km² 人口9554人(2024年2月現在)
- ・1889年(明治22年)5月1日、都農村と川北村が合併して児湯郡都農村が発足。1920年(大正9年)8月1日、都農村が町制施行して都農町が発足。

2 市の特徴

- ・都農神社があり、毎年8月1,2日に夏祭り(夏大祭)は多くの観光客が押し寄せる。
- ・都農ワイナリーの都農ワインまつりが10月に行われ、2004年には「世界のワイン百選」に選ばれた。
- ・藤見公園陸上競技場は、日本陸連の認定グラウンドとして利用している。
- ・都農町を本拠地とする社会人サッカーチーム「ヴェロスクロノスつの」はJリーグ加盟を目指し、活動している。
- ・スポーツ庁から「スポーツ・まちづくり優良自治体表彰2022」を受賞。

3 視察事項について

1) つの職育プロジェクト～スポーツ選手による町の課題解決～

課題：町内唯一の高校が廃校となり、ますます若者が流出

農業・漁業・商工業などの産業分野の担い手が不足

目標：「スポーツ」「生活」「教育」「仕事」を通じて、少年期から青年期までの若者を、
地域企業・農家・行政など、地域ぐるみで育てる取組（職育）

PR ポイント：サッカーチームによる町の課題解決

地域おこし協力隊制度を活用して、現役サッカー選手が地域課題解決
に協力。

アカデミー教育をまち全体でサポート

寮生活と地域での仕事を通して「よき社会人」の育成に寄与。

計画期間：令和元年8月～令和7年3月

取組：地域による人材育成

- ・ツノスポーツアカデミー運営
- ・地域事業者と連携して職業体験

移住定住促進

- ・SNS や広報誌での情報発信
- ・空き家対策、活動拠点整備

農業担い手サポート

- ・農家と働き手のマッチング
- ・農家サポート（繁忙期の支援など）

これから：スポーツを通して仲間と高校生活、若者増

移住者が増え町内も活性化

スポーツ選手のセカンドキャリアの育成

都農町がツノスポーツコミッションと団体管理契約を結び、活動内容の管理運営している。

そして、町内企業・町内農家がサポート体制をとっている。

2) ツノスポーツコミッションについて

・2018年スポーツ産業検討委員会を設立する。都農町・体育協会・商工会・観光協会など、7団体で構成。1年かけて、スポーツを通じて都農町の地域活性化を図るための施策を検討する。

・地域資源を活用した、スポーツ産業を展開し、地域や経済を活性化させるための団体の必要として、2019年4月にツノスポーツコミッションを設立する。

・「都農町は、東九州一のスポーツコンベンションシティになる」目標に向けて、スポーツで人・事業・企業を呼び込み地域課題の解決を目指した。

・地域課題 人口減少と少子高齢化の緩和

まちの産業の活性化と雇用創出

・つの職育プロジェクトに関する連携協定を結ぶ。

都農町 (労働力の確保・定住促進)

ツノスポーツコミッション (スポーツによるまちづくり)

ヴェロスクロノス都農 (サッカー環境)

↓

結果 選手・スタッフ・家族含め3年間で約120名が都農町に移住した。

・ツノスポーツアカデミーの設立。

廃校となった都農高校に代わる新しい形の学校として、地域と学校とクラブを掛け合わせ地域ぐるみで選手を研き育む、ハイブリッドスクールを作る。

↓

結果

・地域の事業者と連携により、アスリートとしての夢を追いかけながら、セカンドキャリアを見据えた働き方を経験する。

・周りの大人も一丸となって、日ごろの活動のサポートや子どもたちの将来の進路選択の幅を広げる取組を行っている。

・夢に向かってチャレンジする仲間と集団生活により、お互いに競い合い、高め合いながら、社会性・チームワークを身に着ける。

・職育受け入れ先の事業者・農家の皆さんも試合の応援のために会場に足を運んでいただくことが増えた。

・親子サッカー教室やスクール交流戦、キッズサッカーフェスティバル、人権啓発サッカー教室など、スポーツを活用して、交流や成長の場を提供している。

・サッカーを通じて、身体を動かす楽しさや仲間と協力する事、ルールを守る事の大切さも伝えている。

都農町としての成果

移住者向け施設管理

アスリート移住者向け選手寮の運営

外国人技能実習生向け住宅の管理（空き家対策）

空き家の管理。（空き家バンク登録のための準備（片付け・掃除））

交流人口・関係人口創出事業

SNS やメディアを活用して都農町の魅力を発信します。

スポーツツーリズムのプログラム開発。スポーツ合宿の誘致、スポーツ大会の開催など、スポーツを通じて都農町を中心に宮崎県に人を呼び込む。

1 週間～10 日程度の都農町体験&交流ツアーの実施。

移住定住促進事業

移住コーディネーターによる、移住希望者と地域住民とのつなぎ役をする。

地域との接点を持ちづらかった住民の暮らしをサポートし、コミュニティづくりをする。

地域活性化事業

農家の担い手不足対策として、繁忙期の農家と担い手となる人材のマッチングシステムの構築。

規格外野菜を有効資源として活用し、新たな商品開発に取り組む。

スポーツまちづくり政策連携

「つの職育プロジェクト」の推進

「藤見運動公園の改修計画」

「部活動の地域移行」における都農町の仕組みづくり。

スポーツ分野の専門性やスポーツを通じた全国的なネットワークを活用し、スポーツまちづくり政策との連携を図る。

3) NPO 法人 都農 enjoy スポーツクラブについて

理念：すべて笑顔と未来のために

スポーツ・運動・文化活動を通し、地域の皆さんの毎日が豊かになるよう、「健康で明るい夢のある町づくり」を目指す。

・スポーツ（運動）・文化・教室・サークルの運営

・イベント等の企画・運営

50m ダッシュ王選手権大会 ドッグフェスタ

・健康づくり事業

介護予防運動サポーター養成

・総合運動公園管理

藤見公園の指定管理委託業務

4) 都農尾鈴マラソン大会の実施

- ・56回の歴史あるアットホームなマラソン大会。3キロ、10キロ、ハーフと小学生から大人まで、誰もが楽しめるマラソン大会になっている。また、参加特典として都農ワインやおにぎり弁当、沢山の表彰をつくり、誰もがワクワクし、楽しめるマラソン大会を運営している。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

まとめ

- ・町の地域課題をしっかりと分析をして、優先順位をつけて重点課題を決めている。また、しっかりと町の長所も分析し、その長所を生かしながら重点課題を克服する為の取組へと結び付けている。その手段としてスポーツ(サッカー)に特化し町の課題解決に取り組んでいる。
- ・地域おこし協力隊も、スポーツコミッションを立ち上げる為の能力のある人材を町に呼び、街の課題を解決するという、明確な使命を持って活動している。
- ・上田市も歴史ある古戦場マラソンを開催している。参加者も応援してくれる人もみんなが楽しめる様な、地元の特産品を参加賞にしたり、速く走れた人だけでなく、楽しい表彰を作ったりと、みんながワクワクする様なイベントにすることで、市民の皆さんも参加したい。市外の人も参加したいと思えるイベントを企画していく必要がある。
- ・上田市には、地域ごとのスポーツ組織があり、それをまとめるスポーツ協会がある。行政と協力しながら、健幸都市上田に向けてスポーツの観点から、誰もが、いつでも、スポーツに親しめるまちづくりに向けて、ワクワクするようなイベントの企画と運営を継続的に続けることで、上田市の新しい魅力につながると考える。
- ・上田市には菅平高原がある。全国からサッカー・ラグビー・陸上など沢山の種目の合宿を受け入れている。上田地域の子どもたちとの関りも深くしながら、地域の魅力を最大限引き出せる様、地域だけでなく上田市全体でどの様な取組をするのか、明確にしていく必要があると考える。
- ・部活動の地域移行に関しても、国や県の動きを待つのではなく、上田地域なりの課題も分析しつつ、どの様に進めていくのか考え、半歩でも前に進めるよう市としての方向性を示していく必要がある。
- ・昨年、「スポーツ都市宣言」もしている。5年後の国民体育大会の成功と生涯スポーツの実現に向けて、スポーツを通して、魅力ある上田の資源を有効活用できる、具体的な施策に結び付ける様、会派として求めていきたい。

